

## 当月のS&amp;P MLP 指数の動き

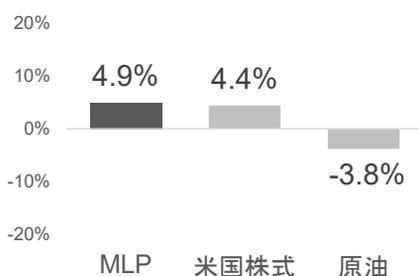
5月のS&P MLP 指数(米ドルベース/トータルリターン)は、前月末比+6.5%と8か月連続での上昇となりました。

新型コロナウイルス向けワクチン接種が加速する米国において、経済活動の正常化に伴うインフレ警戒感が広がったことから、上旬は、米国株式市場が急落する場面がみられました。しかしながら、その後は、インフレ警戒感の和らぎとともに、景気回復期待の拡がりなどから株価が堅調に推移したことや原油価格が上昇基調となったことなどを受け、S&P MLP 指数は上昇しました。

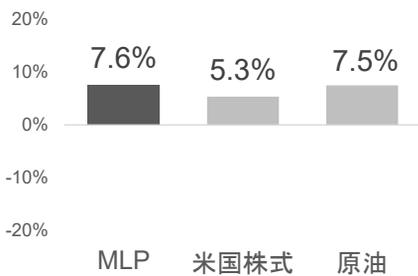
## 過去3カ月の主要指標の月次騰落率

(米ドルベース、トータルリターン)

## 2021年3月



## 2021年4月



## 2021年5月



## 主要指標の動き

MLP:S&amp;P MLP 指数、米国株式:S&amp;P 500 種指数、原油:WTI

休場の場合は、直前の営業日のデータを使用	指数値	指数値	指数値	指数値	騰落率		
	当月末	前月末	3か月前月末	前年末	前月末比	3か月前月末比	前年末比
<b>S&amp;P MLP 指数(米ドルベース)</b>							
トータルリターン	4,367.20	4,101.87	3,632.65	3,165.76	6.5%	20.2%	38.0%
プライスリターン	1,081.98	1,027.64	917.90	818.13	5.3%	17.9%	32.3%
<b>S&amp;P 500種 指数(米ドルベース)</b>							
トータルリターン	8,738.77	8,678.16	7,892.81	7,759.35	0.7%	10.7%	12.6%
プライスリターン	4,204.11	4,181.17	3,811.15	3,756.07	0.5%	10.3%	11.9%
<b>S&amp;P 500種 エネルギー株指数(米ドルベース)</b>							
トータルリターン	781.66	739.04	714.75	561.47	5.8%	9.4%	39.2%
プライスリターン	389.82	371.60	360.19	286.14	4.9%	8.2%	36.2%
<b>S&amp;P 米国 REIT 指数(米ドルベース)</b>							
トータルリターン	1,624.09	1,609.20	1,426.22	1,369.91	0.9%	13.9%	18.6%
プライスリターン	359.78	357.01	318.52	306.79	0.8%	13.0%	17.3%
<b>米国ハイイールド債(ICE BofA 米国ハイイールド・インデックス(米ドルベース))</b>							
トータルリターン	1,532.96	1,528.55	1,509.40	1,498.42	0.3%	1.6%	2.3%
プライスリターン	77.08	77.21	76.95	77.10	-0.2%	0.2%	-0.0%
<b>米国10年国債利回り</b>							
	1.59%	1.62%	1.40%	0.91%	-0.03	0.19	0.68
<b>原油(WTI) 米ドル/1バレル当たり</b>							
	66.32	63.58	61.50	48.52	4.3%	7.8%	36.7%
<b>天然ガス先物 米ドル/百万btu当たり</b>							
	2.99	2.93	2.77	2.54	1.9%	7.8%	17.6%
<b>米ドル(対円)</b>							
	109.58	109.31	106.57	103.25	0.2%	2.8%	6.1%

※「米国10年国債利回り」の騰落率は、変化率(%)ではなく、利回りの変化幅を示しています。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。

## 当月の出来事いろいろ

- 7日、米国の南部テキサス州から東部ニュージャージー州までのパイプラインを操業する、全米最大級のパイプライン運営会社「コロニアル・パイプライン」(非上場)がサイバー攻撃を受けて全ての業務を停止したと発表した。供給懸念などから原油価格が上昇し、12日、WTI原油先物価格は1バレル=66.08米ドルと、今年3月に付けた2019年1月以来の高値を更新した。その後、同パイプラインの操業が再開される中、イラン核合意の協議進展に伴う需給緩和観測などを受け、原油価格は下落基調となったものの、月末にかけて欧米における景気回復期待などから上昇に転じ、WTI原油先物価格は、27日に66.85米ドルとなり、再び高値を更新した。
- 米国株式市場は、初旬は、米雇用統計において非農業部門雇用者数の伸びが予想に反して大きく鈍化したことなどを受け、量的緩和縮小懸念が後退していた。しかしながら、米国の4月の消費者物価指数が市場予想を上回る伸びとなり、インフレへの警戒感が拡がると、量的緩和縮小にとどまらず、利上げを含む金融政策の正常化が前倒しされることへの懸念が強まり、株価が大きく下落した。ただしその後、4月の小売売上高や鉱工業生産などの指標が、市場予想を下回る内容となったことなどから、米長期金利が低下し、インフレへの警戒感が落ち着くとともに、米国株式市場も下げ止まり、月末にかけては、景気回復期待などから上昇した。

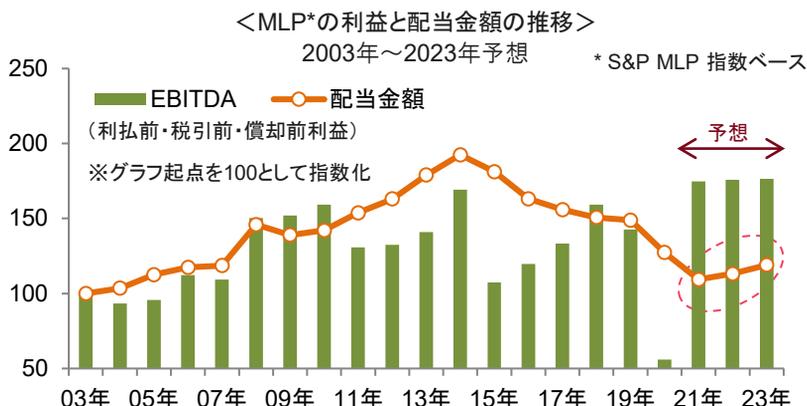
※上記銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当社ファンドにおける保有・非保有および将来の銘柄の組入れまたは売却を示唆・保証するものでもありません。

## 今後の注目点

- 原油価格の動向を捉える意味でも、米欧や中国を中心とした景気回復による需要拡大動向、イラン核合意を巡る協議の行方、そして、OPEC(石油輸出国機構)加盟国と非加盟の産油国からなるOPECプラスによる減産枠組みの動向などが注目される。

## MLPの配当金額見通し

2021年1-3月期の決算では、配当金額を前年同期比横ばいとするMLPが多くみられました。なお、市場予想によると、MLPの配当金額は、2022年以降、回復基調になると見込まれています。



※ 予想は2021年6月1日時点のコンセンサス予想

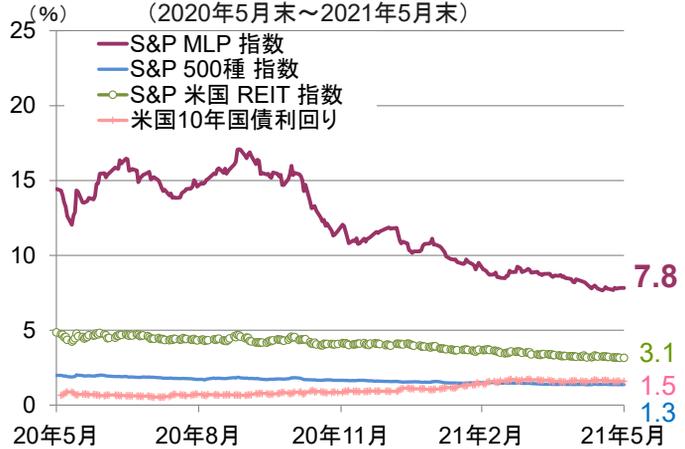
信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成

※上記グラフ・データは過去のものおよび予想であり、将来の市場環境などを保証するものではありません。

■ 過去1年の指数の推移 (米ドルベース/トータルリターン)  
(2020年5月末～2021年5月末)



■ 過去1年の各資産の利回り  
(2020年5月末～2021年5月末)

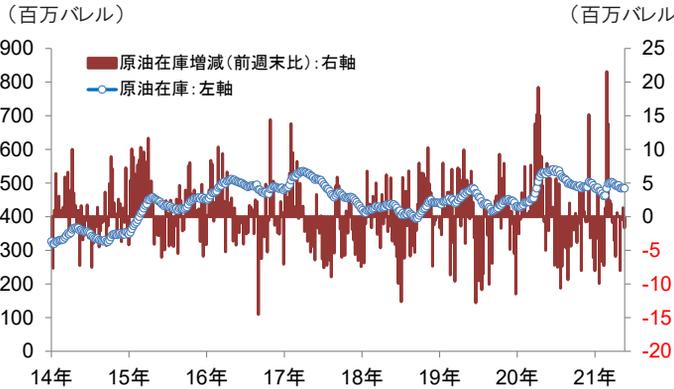


※ 各資産のリスク特性はそれぞれ異なるため、利回りだけで比較できるものではありません。

※ 各指数に関する著作権・知的財産権その他一切の権利は、当該指数の算出元または公表元に帰属します。

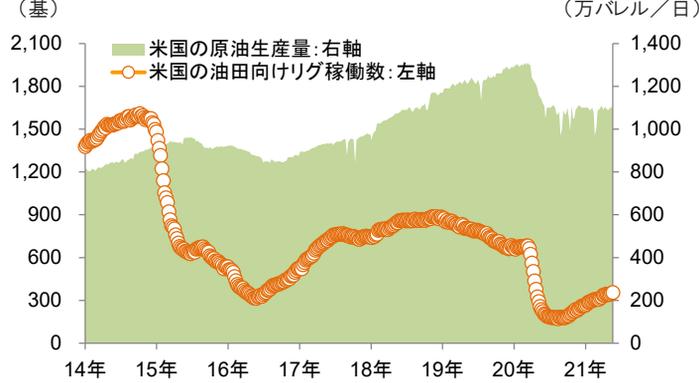
■ 米国の原油在庫

(2014年1月第1週末～2021年5月第3週末)



■ 米国の原油生産量と油田向けリグ稼働数

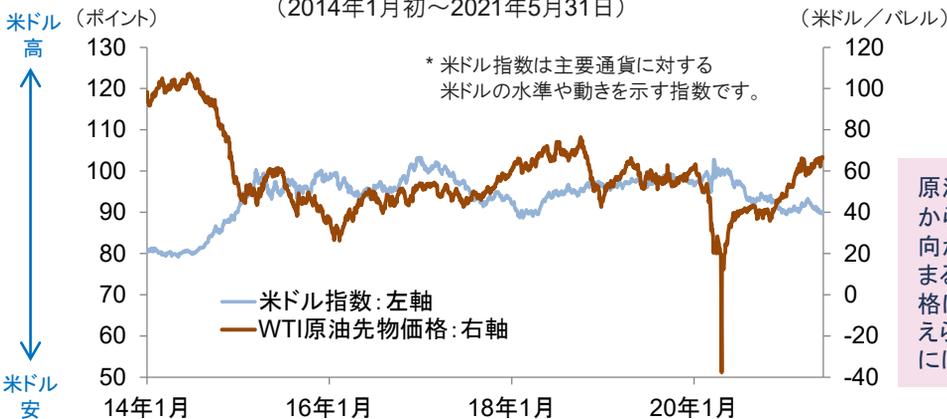
(2014年1月第1週末～2021年5月第3週末)



原油価格は、原油需給の影響を大きく受けます。一般的に、原油在庫が増えれば(減れば)、需給緩和懸念(引き締め期待)から、原油価格は下落(上昇)する傾向がみられます。また、油田向けのリグ稼働数が増え(減り)、原油生産量が増える(減る)と、需給緩和と懸念(引き締め期待)などから、原油価格は下落(上昇)する傾向がみられます。

■ 原油価格と米ドル指数\*

(2014年1月初～2021年5月31日)



\* 米ドル指数は主要通貨に対する米ドルの水準や動きを示す指数です。

原油は、米ドル建てで取引されることから、米ドル相場の影響を受ける傾向がみられます。米ドル安基調が強まる場合、割安感などにより、原油価格に押し上げ圧力が働く可能性が考えられることから、米ドル相場の動向には注視が必要です。

(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※ 上記グラフ・データは過去のものであり、将来の市場環境などを保証するものではありません。